

新潟市の主な特色ある施設一覧

	分類	施設名 【開設年月】 [担当部署]	建設・ 取得等 事業費 (千円)	概要・特色
1	総務	マンガ・アニメ情報館 【平成25年5月】 [文化スポーツ部 文化政策課]	297,478	マンガ及びアニメーションの魅力やその楽しさに触れる機会を提供するとともに、市内外からの誘客促進を主たる目的として設置。 高橋留美子先生や赤塚不二夫先生など本市ゆかりのマンガ家・アニメクリエイターの紹介展示のほか、人気キャラクターと遊べるコーナーや声優体験コーナーなどマンガ・アニメの魅力が詰まったミュージアム。 また、話題の企画展を開催し、県内外から多くの来館者を集めている。
2	総務	マンガの家 【平成25年2月】 [文化スポーツ部 文化政策課]	47,778	マンガの楽しさに触れるとともに、制作体験や制作技術の向上に資する機会を提供することを主たる目的として設置。 本市ゆかりのギャグマンガ家の作品世界を体感できるほか、参加費・事前申込不要のマンガ制作講座を毎日開催している。 また、約1万冊のマンガ本を備え、ゆっくりと作品を楽しむことができる。
3	総務	市民芸術文化会館（りゅーとびあ） 【平成10年10月】 [文化スポーツ部 文化政策課]	30,436,186	音楽、演劇、能その他の舞台芸術の振興を図り、もって市民文化の向上に資することを目的として設置。 音楽・舞台芸術の拠点として、コンサートホール、劇場、能楽堂の3つの本格的専門ホールのほか、スタジオやギャラリーなど本市の文化発信基地としての機能が充実している。 「芸術文化の継承、発展、創造を軸とし、市内・国内外との交流・発信の拠点となることで、一人一人が豊かに生きるまち、社会の実現に貢献する」をミッション（社会的役割）として掲げ、劇場専属舞踊団Noism Company Niigataや準フランチイズオーケストラ東京交響楽団の定期演奏会、アーティストと連携した演劇「ともに考えるプロジェクト」や能楽などの伝統芸能、音楽・演劇分野のジュニア育成、音楽・演劇・舞踊各分野のアウトリーチなどの事業を実施している。
4	総務	水族館（マリンピア日本海） 【平成2年7月】 [文化スポーツ部 文化政策課]	6,850,000	魚類、海獣その他の水生動物に関する知識を広め、魚類等への親しみを深めることにより、市民の教養と健全な余暇の活用に資することを目的として設置。 600種20,000点を飼育・展示する日本海側有数規模の水族館。日本海に生息する魚の水槽などを中心に、科学的で分かりやすい常設展や季節的かつテーマに基づく特別展示では生き物が身近に感じられるよう工夫し、イルカの体のつくりや運動能力などを学ベダイナミックなジャンプが人気のイルカショーを毎日開催している。 「体験できる水族館」をコンセプトに館内のあちこちに体験型「ハンズオン展示」を配置しているとともに、屋外には砂丘湖、小川、たんぼなど本市の陸水環境を再現した「にいがたフィールド」を設置。年間約55万人が来館しており、令和7年度には累計入館者数1,900万人を達成するなど多くの方に親しまれている。
5	総務	新潟市美術館 【昭和60年10月】 [文化スポーツ部 美術館]	2,660,675	美術に関する市民の知識及び教養の向上に寄与するため設置。 本市に生まれ、近代建築の巨匠ル・コルビュジエに師事した前川國男の最晩年の設計。打ち込みタイル工法によるオーブグリーンの外観と向かいの西大畑公園と一体となったデザインが特徴。 また、前川建築を有する自治体で構成する「近代建築ツーリズムネットワーク」に本市も参加し、観光資源の一つとして生かしている。 ボナール、ルドン、ピカソなどの近現代美術と、横山操、阿部展也など新潟ゆかりの作家を中心とした約5,000点を所蔵。年3回前後のコレクション展と数回の企画展を開催している。
6	総務	歴史博物館（みなとびあ） 【平成16年3月】 [文化スポーツ部 歴史文化課]	10,963,715	本市域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めるとともに、歴史を媒介とした市民交流を行うことにより、市民の社会的活動及び文化的活動に寄与することを目的として設置。 幕末の開港5港のうち、開港当時の姿のまま唯一現存する国指定重要文化財「旧新潟税関庁舎」を中心に、その周辺を一体的に整備して開館。水とともに歩んできた個性豊かな新潟の歴史と文化を楽しく学べる歴史情報の発信拠点。 旧新潟税関庁舎の敷地は国指定史跡「旧新潟税関」にもなっており、そこには保税倉庫としての石庫や船から荷揚げするために川岸に設けられた石段などが復元されている。そのほか館の敷地には、移築復元された旧第四銀行住吉町支店をはじめ、西堀に見立てた堀や柳並木なども整備され、明治から昭和にかけての情緒あふれる港町新潟の景観が再現されている。 2代目新潟市役所庁舎のデザインを用いた博物館本館では、「郷土の水と人々のあゆみ」をテーマとした新潟の歴史・民俗について、常設展示室や企画展示室で分かりやすく展示しているほか、ミュージアムシアターや体験の広場では体感しながら学びを深めることができる。さらに、情報ライブラリーでは様々な調べものをするすることができる。 ※新潟市文化財「旧小澤家住宅」を附属館としてあわせて管理・公開

	分類	施設名 【開設年月】 [担当部署]	建設・ 取得等 事業費 (千円)	概要・特色
7	総務	新潟市新津鉄道資料館 【開館：S58（1983）年10 月、リニューアル：H26 （2014）年7月】 [文化スポーツ部 歴史文 化課]	—	鉄道に関する資料を保存・公開することにより、本市と鉄道との関わりについての市民の認識を深めるとともに、市民文化の向上に資するために設置。 旧国鉄の鉄道学園として使われた建物を活用し、「鉄道のまち」として知られる新津の鉄道の歴史や文化について展示している施設。C57形蒸気機関車やE4系新幹線など実物車両7両は見応えがある。新潟県内の鉄道線路を走行できる電車運転体験シミュレータや4月～10月の土・日・祝に運行するミニSL、鉄道模型ジオラマなどはお子さまにも人気。
8	総務	新潟市文化財センター 【平成23年7月】 [文化スポーツ部 歴史文 化課文化センター]	1,975,693	文化財センターは、開発事業等に伴う発掘調査の拠点として、遺跡や遺物等の記録・保存、出土品の保存処理・整理など学術的な研究を行うと同時に、出土品の展示・活用を図るため企画展や講演会を開催したり勾玉作りや火起こしなどの体験（一部有料）も実施している。 併せて、有形民俗文化財の保存・活用も行い、施設内に併設されている民俗資料収蔵庫と敷地内に移築復元されている旧武田家住宅（市指定文化財）の見学もできる。
9	総務	古津八幡山遺跡歴史の広場 及び古津八幡山弥生の丘展 示館 【平成24年4月（弥生の丘展 示館）】 [文化スポーツ部 歴史文 化課文化センター]	769,812	日本海側で最大級の規模を誇る円墳である古津八幡山古墳を有し、文化財保護法により史跡に指定された古津八幡山遺跡に対する歴史遺産としての理解を深めるとともに、社会教育及び文化の向上に資するため、新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場を設置する。（歴史の広場に弥生の丘展示館を置く。） 古津八幡山遺跡は国指定史跡であり、弥生時代後期・終末期の大規模な高地性環濠集落で、竪穴住居が66棟、方形周溝墓5基、前方後方型周溝墓1基などが見つかっている。 古津八幡山古墳は直径60mの県内最大の円墳で、墳丘斜面中ほどには幅4～5mの平坦面（テラス）がめぐっている。また、南西側には最大幅13m、深さ4mの巨大な濠（周濠）が見られる。 これらのガイダンス施設として古津八幡山の麓に弥生の丘展示館が設置されており、古津八幡山遺跡の出土品などを展示しているほか、勾玉作り・火起こしなどの体験（一部有料）もできる。
10	総務	新潟市文書館 【令和4年1月8日】 [文化スポーツ部 歴史文 化課]	293,588 (うち建設 費271,114)	新潟市の歴史にとって重要な文書等（歴史公文書や地域の歴史資料）を適切に保存し、市民の利用に供するほか、歴史に関する資料の収集、調査研究を進めることで、市史編さんや歴史に関する情報発信につなげ、併せて市民の調査研究の支援を行う。 政令指定市における文書館機能を有する施設としては、全20市中10番目の開館となる（公文書管理に関する条例を制定している政令市の文書館としては6番目）。 施設は平成30年3月に閉校した旧太田小学校の校舎を活用して整備した。新潟市史編さん事業の過程で収集した地域の歴史資料（古文書）等を中心に約41万点（うち32万点を文書館で保管。残りは横越・新津書庫等で分散保管）を所蔵する。 資料の特性に合わせた温室度管理を行う特別収蔵庫をはじめとして複数の収蔵庫を備え、いずれも小規模ではあるが来館者のための資料閲覧室、研究成果を分かりやすく解説する講座や古文書解説講座等を開催するための講座室、所蔵資料をテーマを決めて展示公開する資料公開室を備える。 所蔵資料をインターネット経由で検索できるクラウド型資料検索システムを導入し、リモート環境からの検索に対応している。また、国立公文書館の資料検索システムからの横断検索にも対応する。
11	総務	新潟市観光案内センター 【令和6年3月】 [観光・国際交流部 観光 政策課]	187,315	新潟駅周辺整備事業に伴ってリニューアルされる新潟駅構内に新たな観光案内センターを整備し、来訪者へのおもてなしと本市の観光情報・魅力等を発信する 対面での観光案内をはじめ、新潟空港と佐渡汽船の運行情報を提供するほか、様々なデジタルサイネージを活用して、付近を通行される方にも情報発信を行う。 ① 透過型LEDサイネージ 約11㎡ ② 三面LEDビジョン 約22.5㎡ ③ 観光情報ディスプレイ 55型×2面 ④ 二次交通案内ディスプレイ 55型×2面 ほか、ポスターラック、パンフレットラック、フリーカウンター、タブレット端末等

	分類	施設名 【開設年月】 【担当部署】	建設・ 取得等 事業費 (千円)	概要・特色
12	総務	石油の世界館 【昭和63年9月】 【秋葉区 産業振興課】	524,000	明治末期から大正初期にかけて日本一の産油量を誇った新津油田をはじめとする、石油採掘の歴史や石油と人のかかわりを紹介する資料館。 石油の誕生から現在の油田の様子などを映像で学べるほか、館内には石油井戸を掘っていた頃の道具や写真、模型などがそろい、新津の石油文化を紹介している。
13	総務	しろね大風と歴史の館 【平成6年8月】 【南区 地域総務課】	1,580,000	白根大風合戦並びに白根地区の歴史及び文化を広く内外に紹介するとともに、市民文化の資質向上に資する目的で設置。 国内外の凧（約4千点）を集めた世界最大級の凧の資料館。 館内には、例年6月に開催される世界最大スケールの白根大風合戦の雰囲気味わえる立体映像室や、凧作りを体験できる凧工房、凧揚げ実験ができる風洞実験室を備えているほか、「白根」の歩みがわかる歴史民俗資料も展示している。
14	総務	旧笹川家住宅 【 — 】 【南区 地域総務課】	—	日本でも有数の規模を持つ、近世後期の大庄屋の住宅である旧笹川家住宅を活用し、市民の歴史及び文化に対する認識を深めるとともに、市民文化の向上に資するため設置。 笹川家は、安土桃山時代に信濃国水内郡笹川村から味方に移住し、昭和45年に離れるまで、14代300年以上にわたって続いた名家である。茅葺きの表門は天正年間（1573年～1591年）建築と推定されており、母屋は文政2年（1819年）に全焼したものを文政9年（1826年）まで7年間をかけ再建したもの。 本市が所有する唯一の国指定重要文化財。
15	総務	新潟市新津美術館 【平成9年10月】 【文化スポーツ部 新津美術館】	—	新潟市中心部から約20kmに位置し、豊かな自然が広がる「花と遺跡のふるさと公園」内にある、黄色い外壁の美術館。エントランスから一歩中に入ると、印象的な白い大理石の階段状のアトリウムが広がり、当館のシンボルとなっている。 この階段を上がった2階には天井高最大10mの二つの展示室があり、絵画や写真、絵本や漫画・アニメなどさまざまな展覧会を開催している。
16	農水	食と花の交流センター（いくとびあ食花内） 【平成26年6月】 【農林水産部 食と花の推進課】	2,355,104 (建設費のみ)	本市が誇る食と花の魅力を市内外に発信し、多くの人にその魅力に触れる機会を提供することにより、食と花の販路の拡大及び農村と都市との間の交流を促進し、もって農林水産業の振興及び市民の豊かな生活の実現に資することを目的に設置。 ガーデン、直売所、レストランなどからなる複合施設。
17	農水	食育・花育センター（いくとびあ食花内） 【平成23年10月】 【農林水産部 食と花の推進課】	2,016,108 (建設費のみ)	食と花を一体的に学ぶことができる場を提供することにより、食育及び花育を推進し、もって市民の健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育むことを目的に設置。 旬の食材を使った料理教室や、季節に応じた園芸講座など、「食と花」に関する講座を開催している。 食育・花育の情報展示コーナーでは、暮らしに役立つ情報を学ぶことができる。 解放感あふれるアトリウムや屋上庭園では、四季折々の花や緑を楽しめるほか、屋外にも見本園がある。 料理体験ゲームや食事バランスチェックなど、楽しみながら学べる体験展示コーナーのほか、団体向けの体験プログラムやミニ体験も実施している。 「食と花」に関する活動場所として、調理実習室と講座室を貸し出している。
18	農水	アグリパーク 【平成26年6月】 【農林水産部 食と花の推進課】	1,898,832 (建設費のみ)	日本初の公立教育ファームとして、子どもや市民が農業に触れ、親しみ、学ぶ場を提供することにより、地域の農業に対する理解を深め、もって郷土愛を育む。また、市内の生産者等に対する食品の加工等に関する技術的支援を行うことにより、農業の振興に資するために設置。 園内では、農作物の収穫、家畜の乳搾りや餌やり、収穫した野菜を使ったピザ作りなどを体験でき、体験や研修の際に利用できる宿泊施設も完備している。 「就農支援」や「6次産業化」もテーマに掲げ、本市の農業を活性化させていく役割も担っている。

	分類	施設名 【開設年月】 [担当部署]	建設・ 取得等 事業費 (千円)	概要・特色
19	農水	農業活性化研究センター 【平成25年6月】 [農林水産部 農業活性化研究センター]	2,089,474	本市のさらなる農業振興を図るため、農業者が抱えている技術的な課題の解決や農村の活性化を支援するとともに、隣接するアグリパークの食品加工支援センターと連携しながら、6次産業化を支援している。
20	土木	万代島多目的広場 【平成30年6月】 [都市政策部 港湾空港課]	792,843	多様な活動を行う場及び憩いや集いの場を提供することにより、港を生かしたにぎわいを創出するため設置。 新潟港西港区の万代島地区において、港の日常風景を眺めながら憩い、集える空間として、かつて水産物の荷さばき施設として使用された、大きなかまぼこ型の屋根が特徴の建物を改修した屋内広場と、隣接して整備された広大なイベントスペースを持つ屋外広場で構成された多目的広場。 通常時は一般開放しているほか、専用利用も可能で、電源や給排水など、イベント等に利用可能な設備を有する。 市民が新潟港を身近に感じるとともに、みなとまち新潟への愛着を深めてもらうほか、港の新たな交流拠点として、イベント等の開催や近隣施設との連携による相乗効果で港のにぎわいを創出し、交流人口の拡大を目指している。
21	土木	水の駅「ビュー福島潟」 【平成9年7月】 [北区 産業振興課]	1,718,980	福島潟の自然保護と、地域文化の伝承及び新たな文化の創造を目指す自然文化の情報発信施設として設置。 屋上からは福島潟と田園風景を一望できる。館内は潟の動植物や歴史、ライブ映像を常設展示しているほか、写真展や絵画展などの企画展示を行っている。 青木淳氏設計、平成11年日本建築学会賞作品賞受賞。
22	土木	ライジングボラード（古町通6番町、8番町） 【6番町：平成26年8月、8番町：平成28年3月】 [中央区 建設課]	—	日本で初めて公道に設置した自動昇降式の車止め。（古町通6番町） まちなかで自動車の通行を物理的に制限することにより、歩行者が安心・安全に歩ける道路空間を創出し、これまで以上にまちのにぎわいや魅力向上を図るため設置。 本市では、今後の超高齢社会へ対応する都市づくりのひとつとして、健康施策とまちづくり施策との連携により、健康づくりの無関心層を含む住民の行動変容を促しつつ、自律的に「歩く」を基本とした持続可能な先進予防型社会を創造する「健康都市づくり（スマートウエルネスシティ）」を推進している。 このため、中心市街地において、ライジングボラードの整備により歩行者主体の道路空間を創出し、歩行者数を増加させ、市民の健康づくりと中心市街地活性化を図っている。
23	土木	ライジングボラード（日和山小学校地区） 【平成30年4月】 [中央区 建設課]	—	小学校の校舎移転により、主要な通学路となった生活道路における通学時の安全対策のため設置。 小学校前の生活道路は、平成29年4月の校舎移転により、主要な通学路になることが想定されたため、関係者とのワークショップにおいて、平日の登校時間帯の交通安全を図り、新たな交通規制とライジングボラードを設置する方針が取りまとめられた。そのため、ライジングボラードを設置し、通学時の安全対策として、通行規制の時間帯に合わせて稼働し、通過交通の抑制を図っている。
24	教育	芸術創造村・国際青少年センター（ゆいぽーと） 【平成30年5月】 [教育委員会事務局 中央公民館]	1,034,478	廃校後の校舎（旧二葉中学校校舎）を活用した青少年体験活動施設、文化芸術活動及び地域交流拠点施設の機能を併せ持つ複合施設として設置。 海辺や松林など周辺の自然環境を活かした青少年体験活動や、芸術家が一定期間滞在し創作活動を行うアーティスト・イン・レジデンス事業などを展開している。また、子どもたちの放課後の安心な居場所や身近な地域交流の場としても親しまれている。

	分類	施設名 【開設年月】 [担当部署]	建設・ 取得等 事業費 (千円)	概要・特色
25	総務	佐潟水鳥・湿地センター 【平成10年5月(設置：環境 省 管理：新潟市)】 [西区 地域課]	—	ラムサール条約湿地である「佐潟」で、水鳥などの観察や湿地保全と賢明な利用についての普及啓発活動を行う拠点として開設。市内唯一のラムサール条約湿地「佐潟」を一望できる。 コハクチョウをはじめとする渡り鳥の集団渡来地として1981(昭和56)年に国指定佐潟鳥獣保護区に指定され、1996(平成8)年にラムサール条約湿地に登録された。 環境省の全面的な協力支援により「佐潟を学び見て、共に考え交流できる施設」を目指し、ラムサール条約湿地についての「保護の取組み」や佐潟の歴史・文化・生業を紹介した「人との関わり」のほか、佐潟の動植物や生態系を解説する「佐潟に生きるもの」の3つの展示テーマから、“これからの佐潟について考える・活動する”きっかけをつくる施設となるよう、センター内の展示改修を行った。
26	商工	新潟市バイオリサーチセンター 【平成17年11月】 [経済部 産業政策・イノベーション推進課]	—	研究室は全17部屋。新潟薬科大学新潟キャンパスに隣接しており、研究者と交流しやすい環境が整っている。 施設運営者が大学の研究者とのマッチング支援を行っており、企業は専門的問いを個々の大学に問い合わせる必要がなく、当該施設がワンストップ機能を果たしている。